

第 6 回
高齢者の生活実態と
介護サービス等に関する
意識調査結果について

大阪府福祉部高齢介護室

1 . 調査実施概要

1. 報告書構成

▶ 第1章 調査実施概要

1.調査目的、2.調査設計、3.回収結果、4.表記などについて

▶ 第2章 調査結果

各設問集計結果及び、「その他」等の自由記入欄に寄せられた意見、属性設問とのクロス集計表（抜粋）、経年比較、項目間クロス集計

▶ 第3章 調査結果データ（集計表）

属性設問とのクロス集計表

①構成比（%） ②実数

▶ 資料 調査票

2. 報告書とりまとめにあたって

- ・各設問に記載する解説（コメント）については、集計結果からみられる傾向等を記載。
- ・「その他」等の自由記入欄に寄せられた意見が多かったものを掲載。

3. 回収結果

標本数 (a)	不到達 標本数 (b)	到達 標本数 (c)=(a)-(b)	回収数 (d)	標本数に対する 有効回答率 (d)/(a)	到達標本数に対する 有効回答率 (d)/(c)
6,230	15	6,215	4,160	66.8%	66.9%

・基本属性等(※上段は調査結果、下段括弧書きは府内構成比を指す)

男女比	男性	女性
	43.1% (42.6%)	54.8% (57.4%)

年齢	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
	16.0% (19.09%)	24.7% (25.53%)	22.2% (21.08%)	16.9% (17.47%)	10.3% (10.73%)	5.8% (6.10%)

要介護 (支援) 認定率	20.5% (23.0%)
--------------------	----------------------------------

※府内構成比については、「大阪府毎月推計人口 令和4年10月1日時点」
及び「厚生労働省 介護保険事業状況報告（年報）、（月報）」より算出。

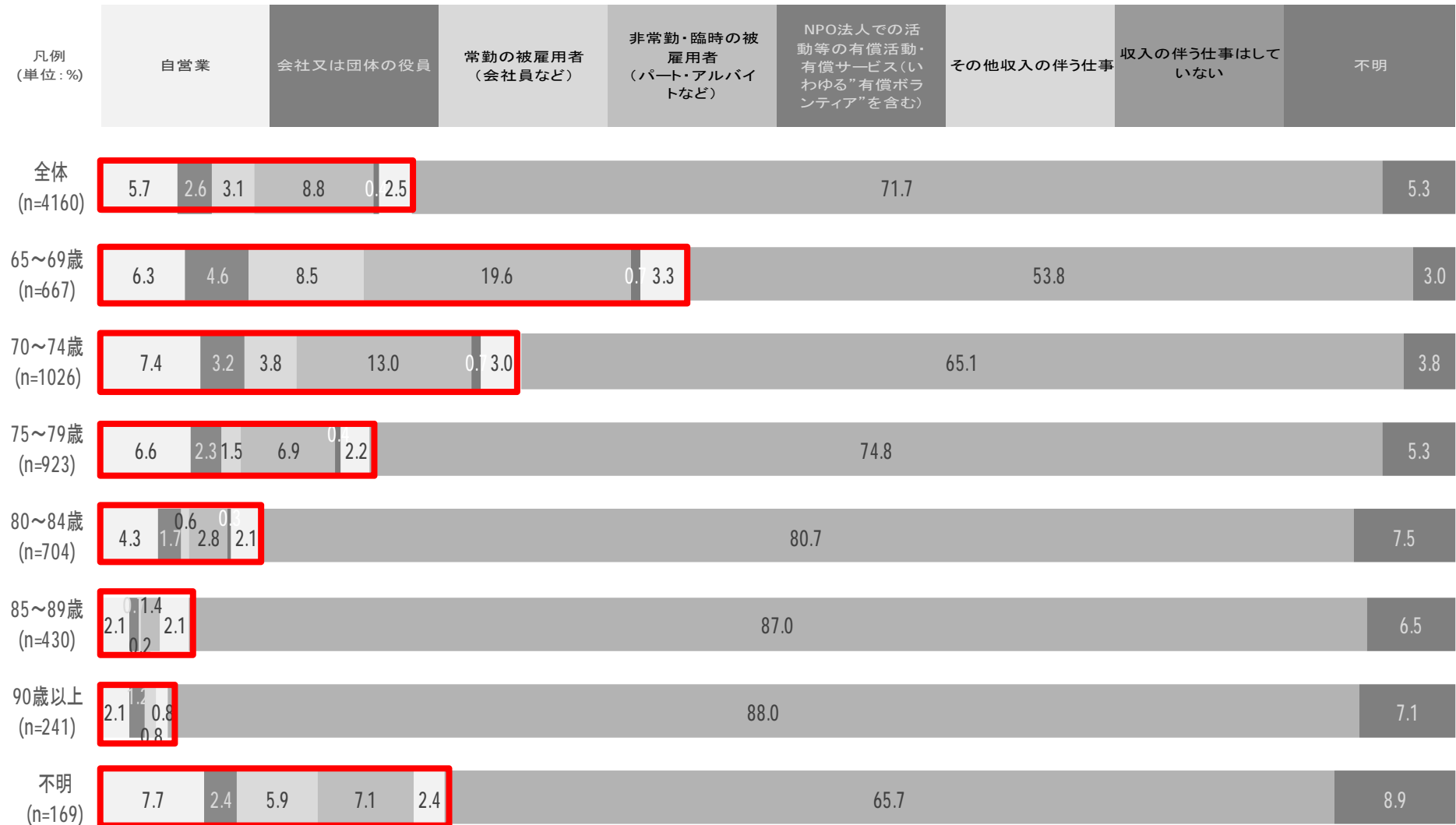
2. 新規調査項目について

2. 新規調査項目について

設定の考え方

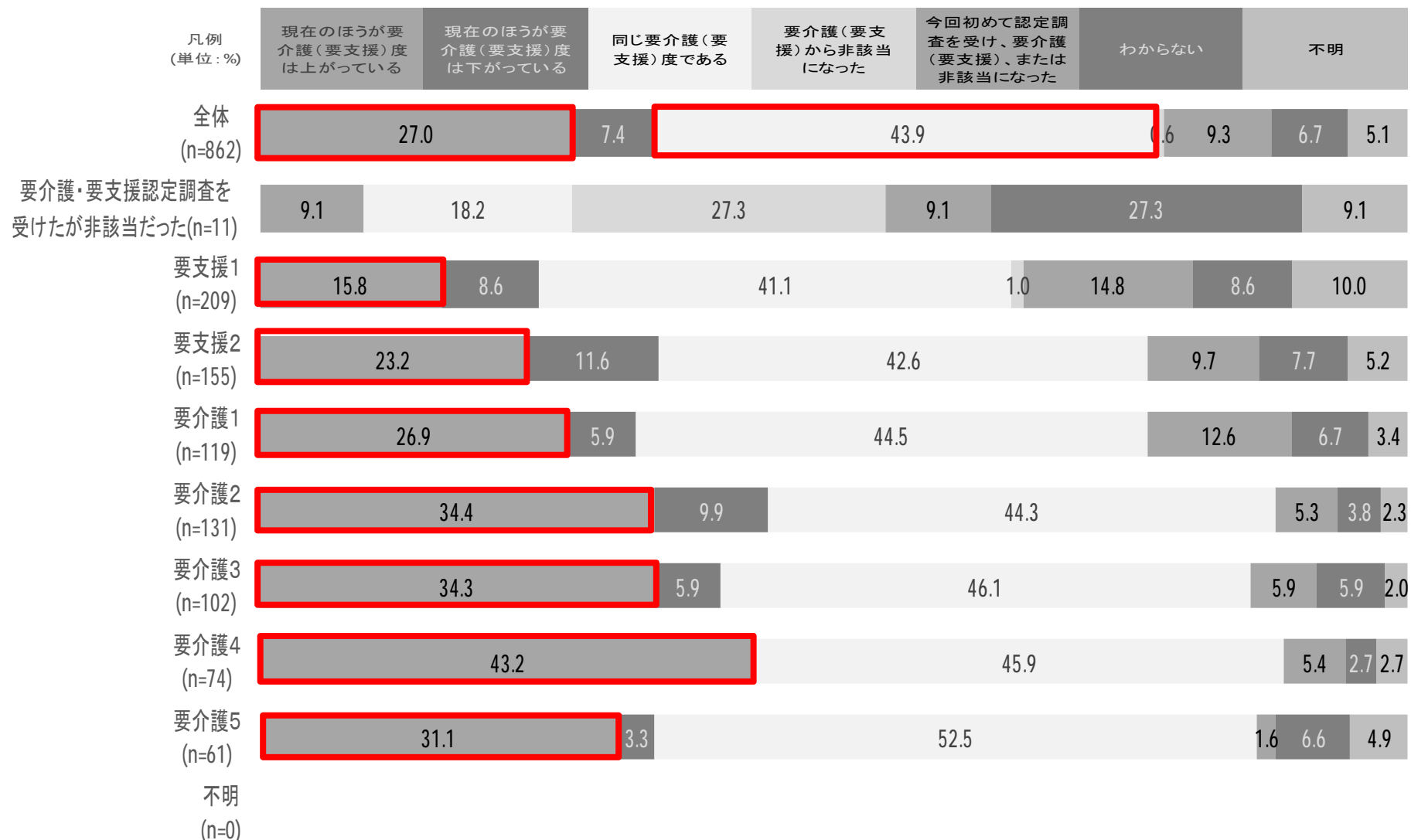
- ・ 問5 「収入を伴う仕事について」
就労状況と介護予防などとの関係性を見るために追加
- ・ 問9 「要介護（要支援）度の変化について」
要介護（支援）度について前回認定時からの変化の状況を確認するために追加
- ・ 問**38** 「お持ちの情報通信機器について」
高齢者の方々に施策や取組みが円滑に届くよう、効果的な情報伝達手法を把握する目的で追加

問5. 収入を伴う仕事



- 収入を伴う仕事として最も割合が高いのは「非常勤・臨時の被雇用者」で**8.8%**、次いで「自営業」で**5.7%**
- 年齢別にみると、年齢が上がるにつれて収入を伴う仕事をしている割合が減少

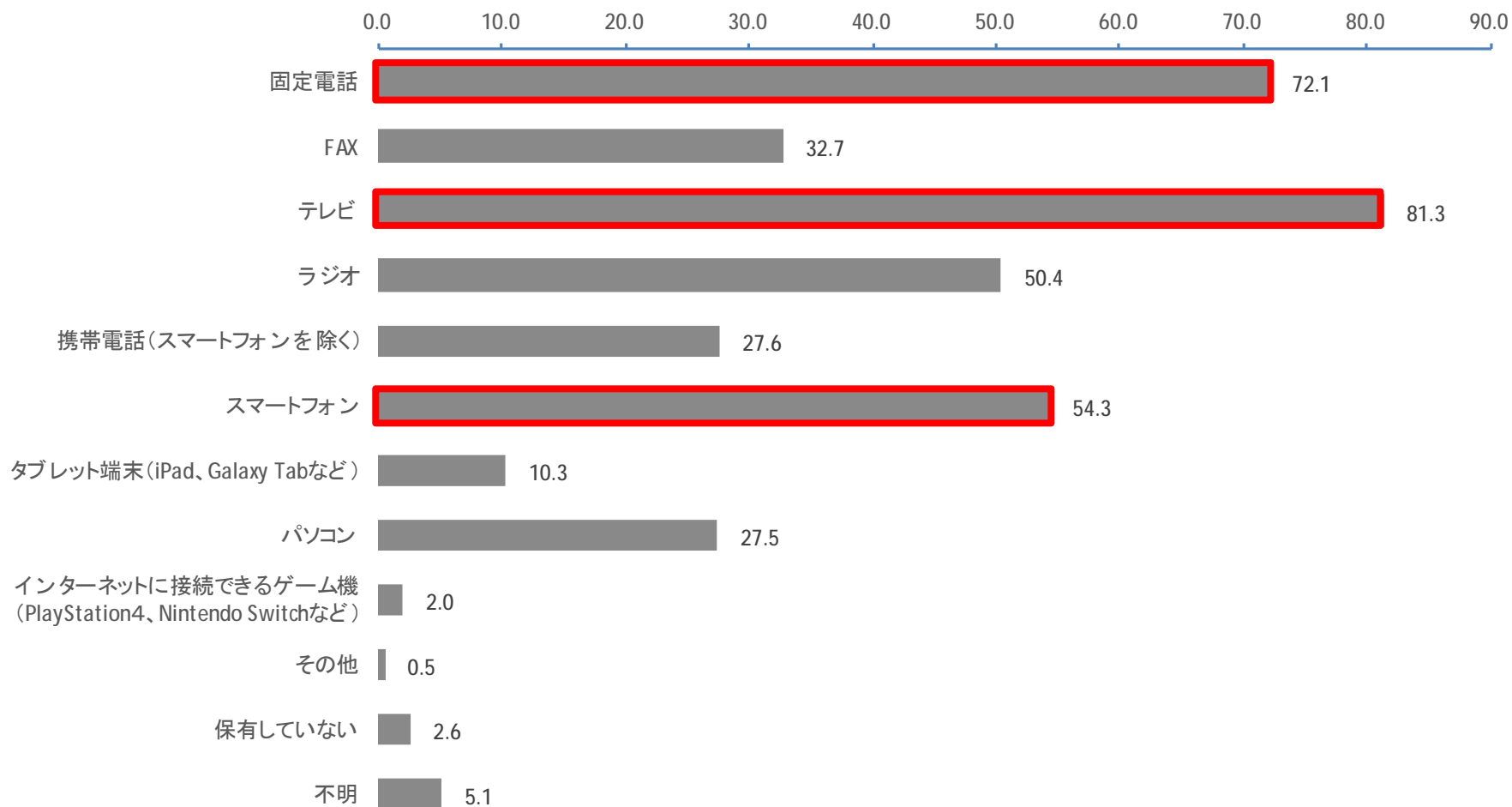
問9. 要介護（要支援）度の変化



・要介護度の変化としては、「同じ要介護（要支援）度である」が**43.9%**、「現在のほうが要介護（要支援）度は上がっている」が**27.0%**

・現在の要介護（要支援）度別で見ると、要介護（支援）度が上がるほど「現在のほうが要介護（要支援）度は上がっている」の割合が増加する傾向

問38. お持ちの情報通信機器



・情報通信機器の所有状況は、「テレビ」(81.3%)が最も多く、次いで「固定電話」(72.1%)、「スマートフォン」(54.3%)の順

3. 経年比較項目について

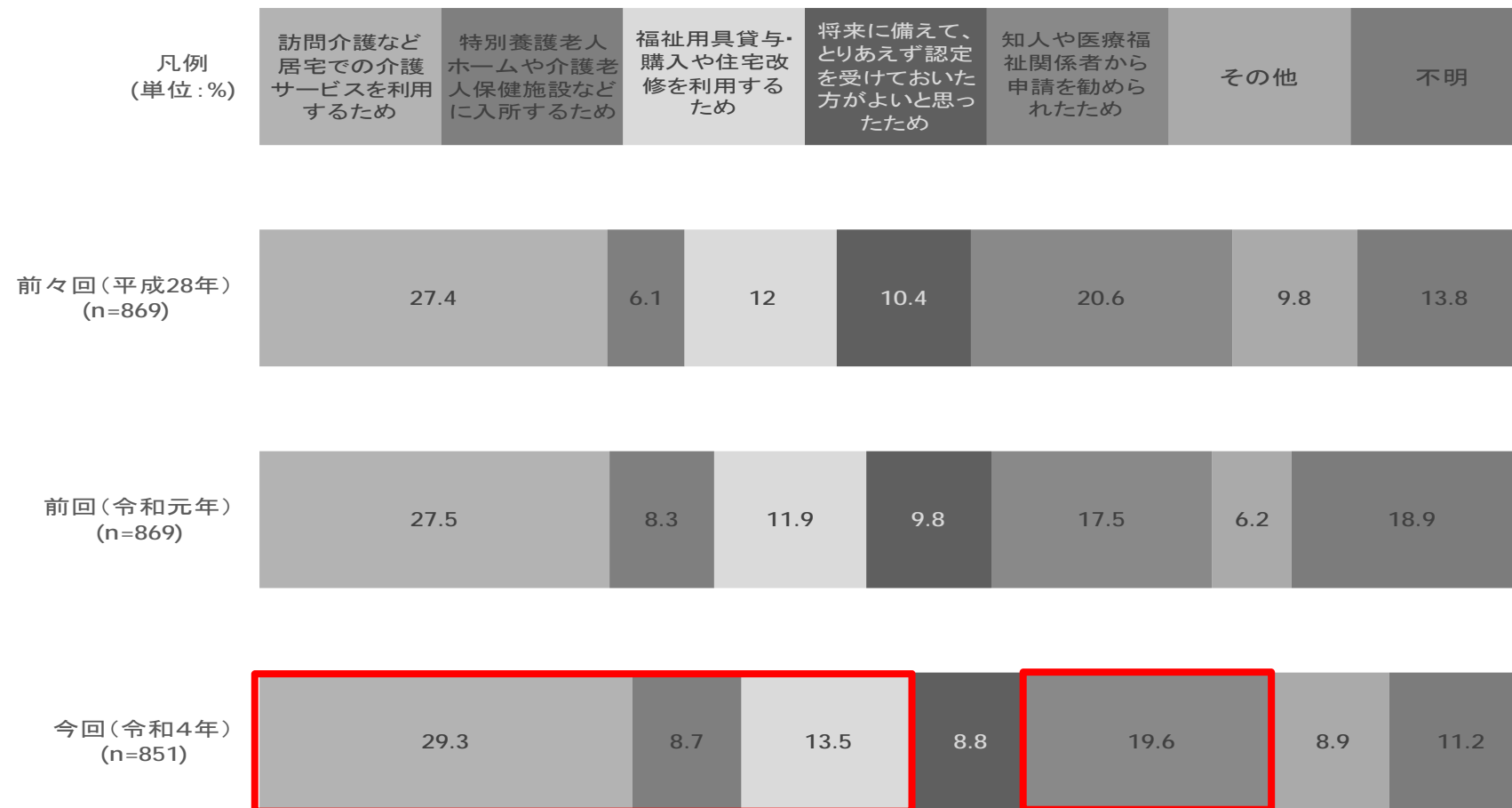
3. 経年比較項目について

設定の考え方

前回と同様の項目を比較することで、対象者の状況を推移を確認する。

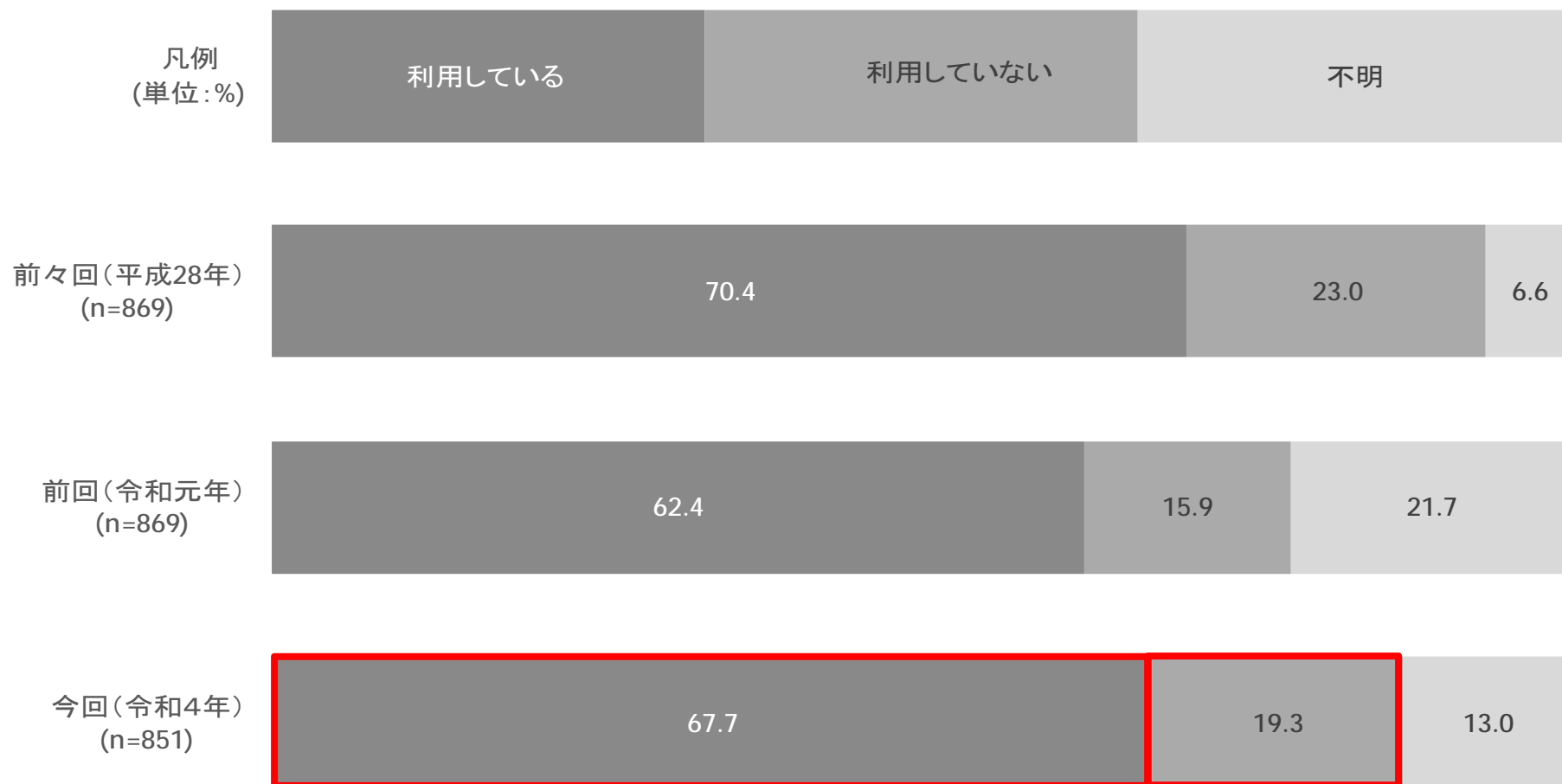
- ・ 問10 「要介護（要支援）認定を受けた理由」
- ・ 問11-1 「介護サービス利用の有無」
- ・ 問13-1 「介護サービス利用者の満足度」
- ・ 問23 「日々の充実感」
- ・ 問25 「日々の暮らし向き」
- ・ 問33 「住んでいる地域での暮らしの安心」

問10.要介護（要支援）認定を受けた理由【経年比較】



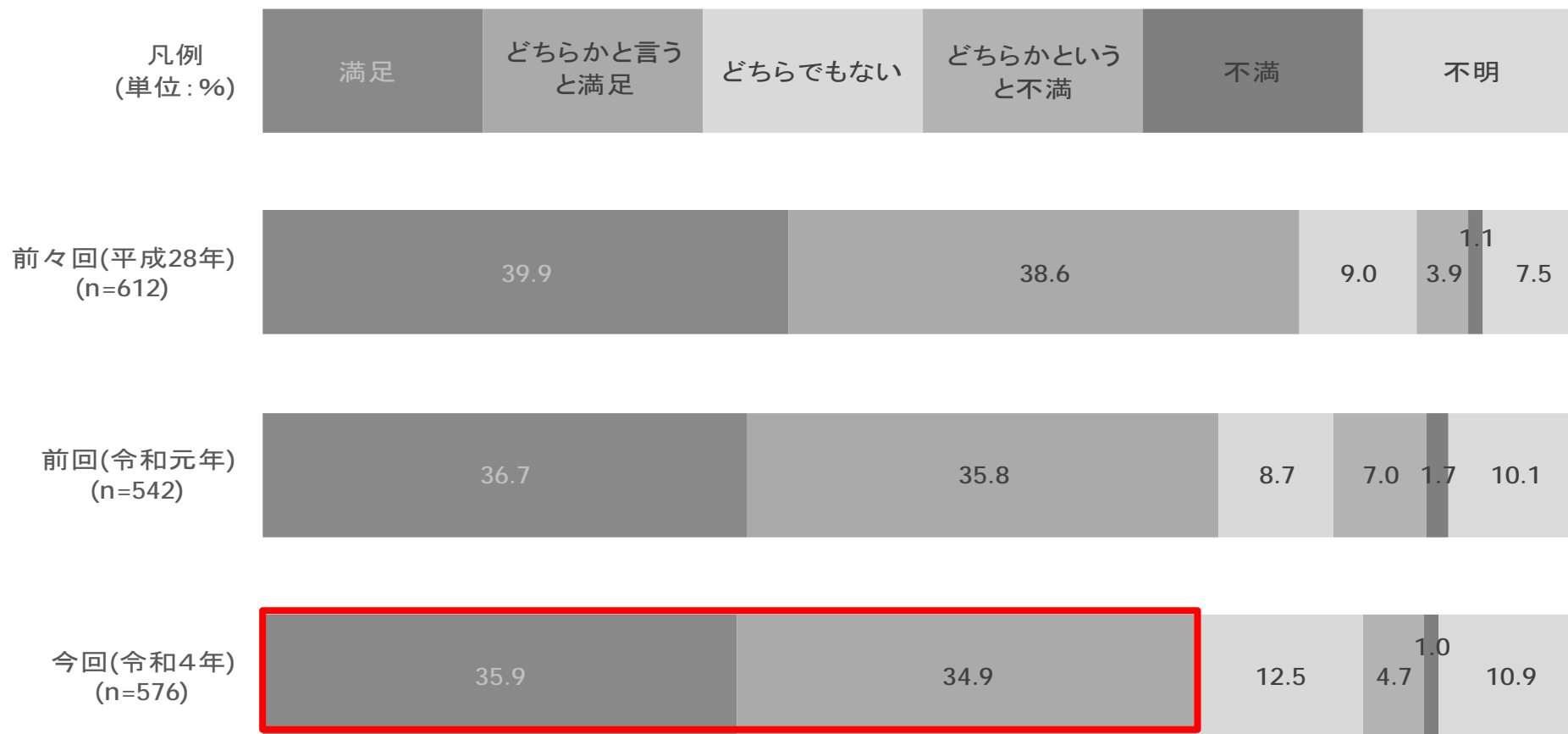
・前回調査と比較すると、「訪問介護など居宅での介護サービスを利用するため」「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などに入所するため」「福祉用具貸与・購入や住宅改修を利用するため」「知人や医療福祉関係者から申請を勧められたため」の割合がそれぞれ、やや増加

問11-1.介護サービス利用の有無【経年比較】



・前回調査と比較すると、「利用している」は**5.3**ポイント、「利用していない」は**3.4**ポイントそれぞれ増加

問13-1.介護サービス利用者の満足度【経年比較】



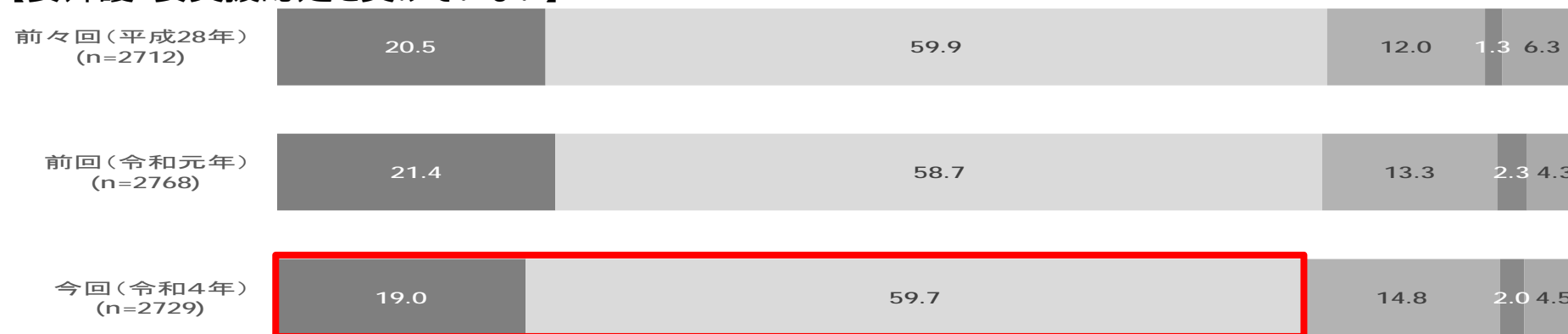
・前回調査と比較すると、「満足」「どちらかというと満足」はいずれも変化はほとんどみられなかった。

問23.日々の充実感【経年比較】

【要介護・要支援認定を受けている】



【要介護・要支援認定を受けていない】



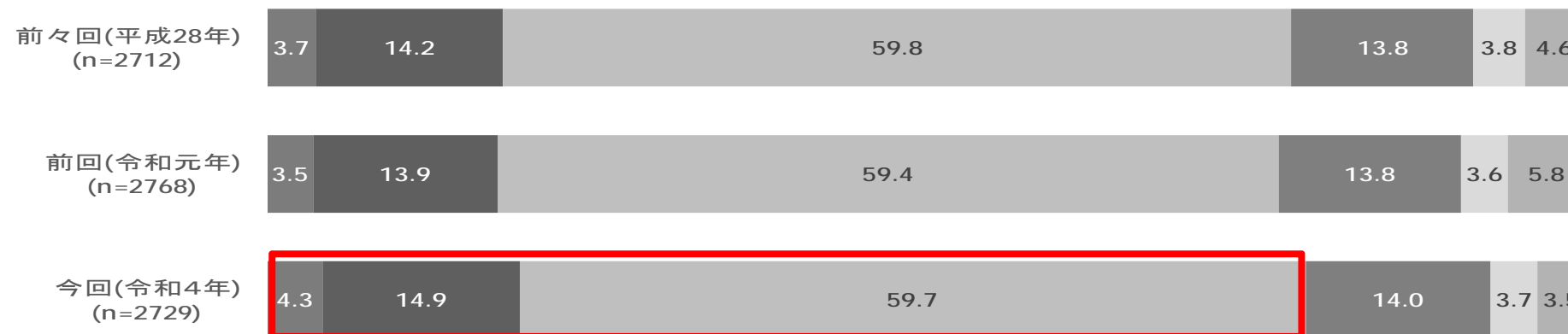
- ・前回調査と比較すると、要支援・要介護認定を受けている方は、「たいへん充実感がある」がやや減少していた一方で、「どちらかという充実感がある」、「どちらかという充実感がない」がそれぞれ、やや増加
- ・要介護・要支援認定を受けていない方は、「たいへん充実感がある」がやや減少した一方で、「どちらかという充実感がある」、「どちらかという充実感がない」がそれぞれ、やや増加

問25. 日々の暮らし向き【経年比較】

【要介護・要支援認定を受けている】



【要介護・要支援認定を受けていない】



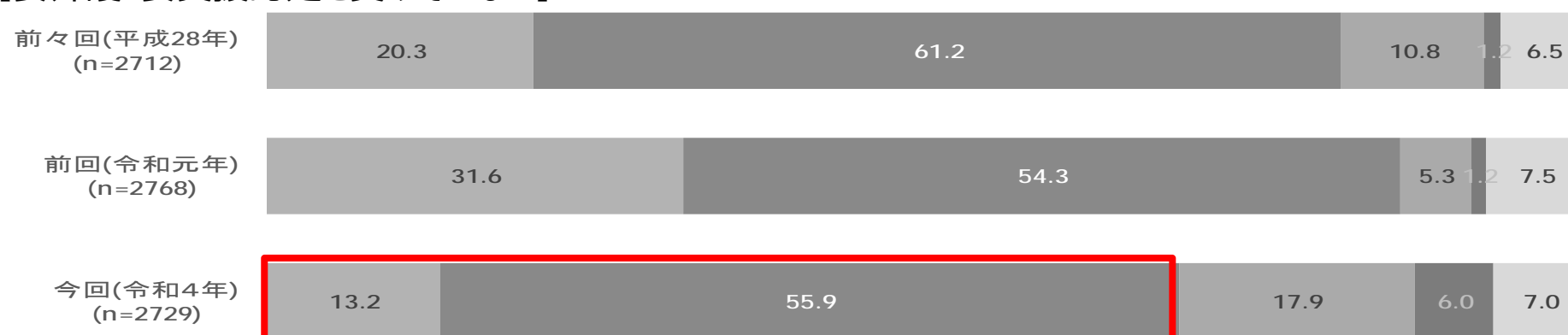
・前回調査と比較すると、要介護・要支援認定の有無に関わらず、「たいへんゆとりがある」、「ややゆとりがある」、「普通である」の割合がそれぞれ、やや増加

問33.住んでいる地域での暮らしの安心【経年比較】※

【要介護・要支援認定を受けている】



【要介護・要支援認定を受けていない】



・前回調査と比較すると、要介護・要支援認定の有無に関わらず、「安心して暮らすことができる」と答えた方が減少し、「どちらかというと安心して暮らすことができる」がやや増加
 ※前回調査より、質問文を一部修正

4. 項目間クロス集計について

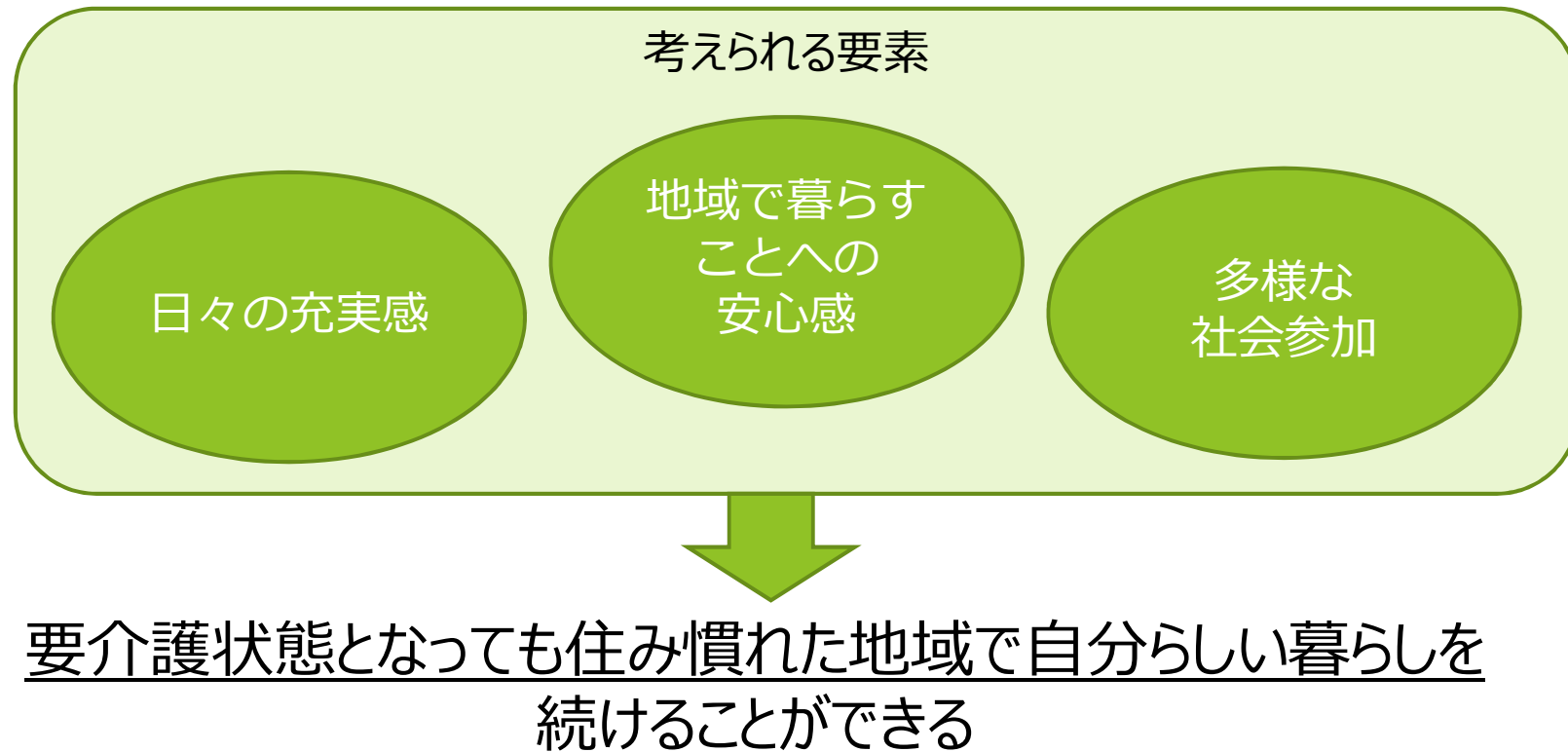
4. 項目間クロス集計について

分析のテーマ

地域包括ケアシステムの深化・推進（要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続ける）

目的

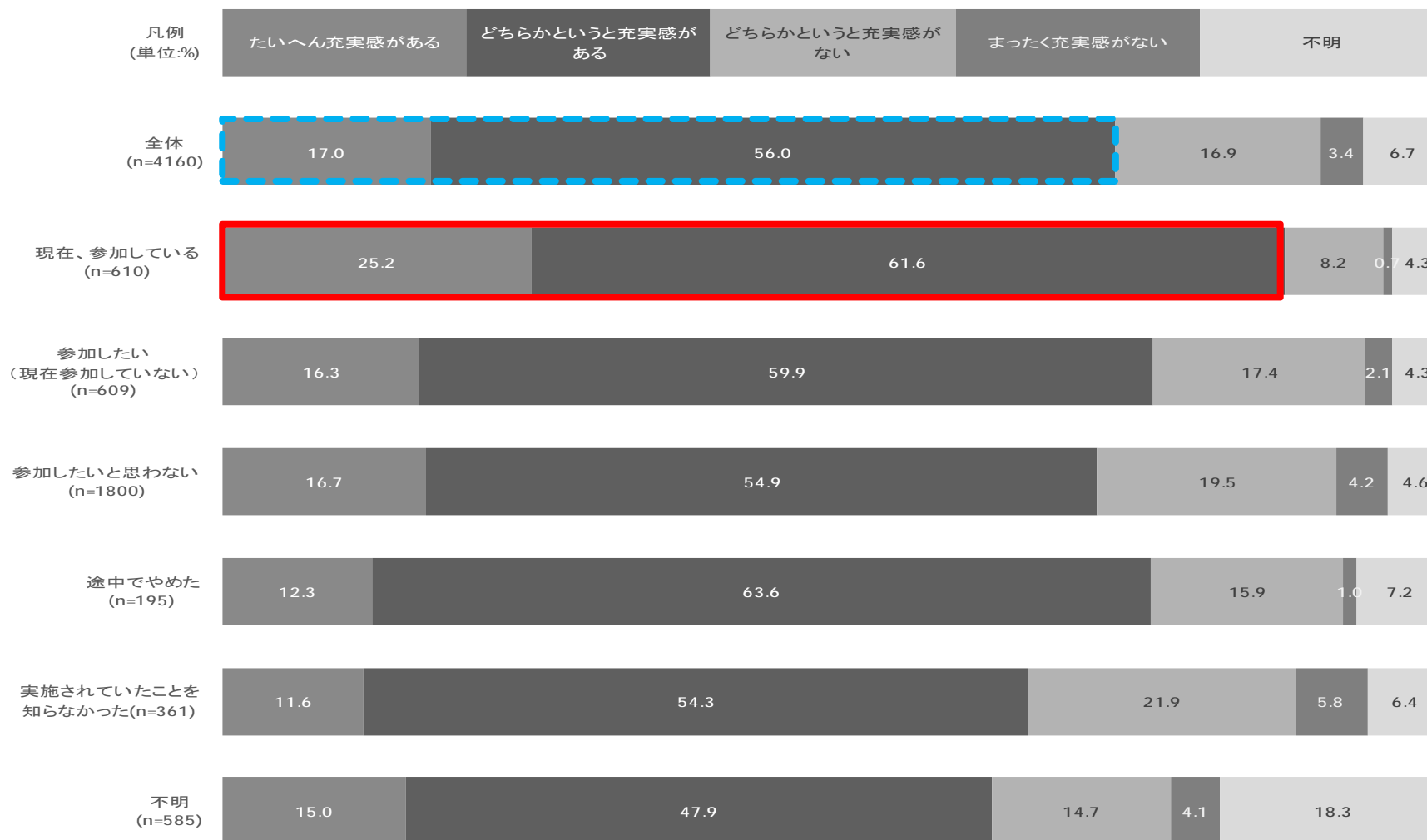
要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるために、日々の充実感、地域で暮らすうえでの安心感、社会参加がどのように関係しているのかを確認する。



【項目間クロス集計結果を踏まえて】

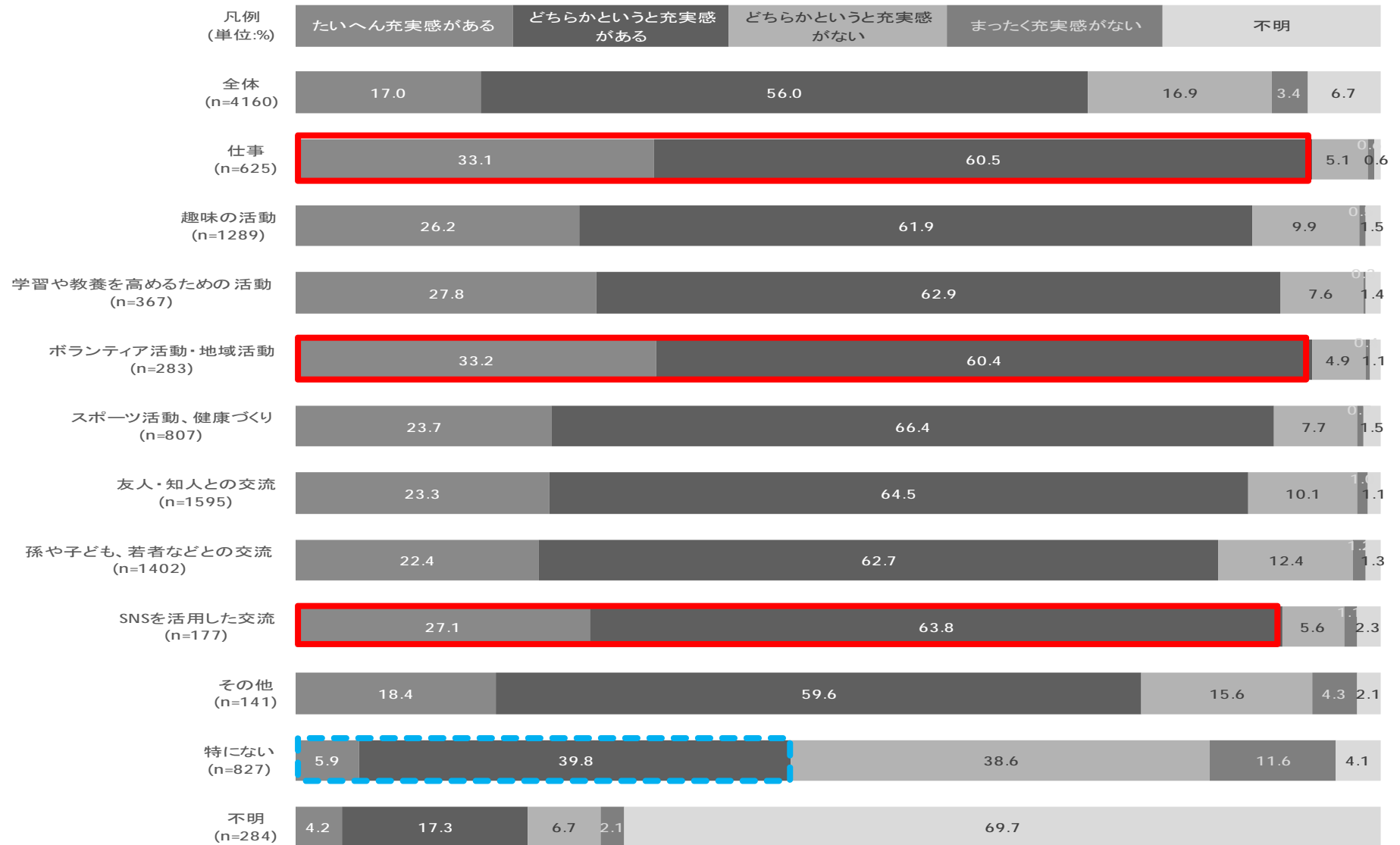
- 日々の充実感、地域で暮らすうえでの安心感、社会参加は正の相関関係があると考えられる。
- 特に、社会参加の中でも、「仕事」「ボランティア活動・地域活動」は日々の充実感と関係性が高いと考えられる。
- 「話し相手がいない」「通知やお知らせ、情報が分からない」方は、地域で安心して暮らすことができないと感じる傾向にある。

問23.日々の充実感 × 問16-1.健康体操や趣味の集い等の参加状況



・健康体操や趣味の集い等に「現在、参加している」方は、全体に比べて、「たいへん充実感がある」「どちらかという充実感がある」と回答した割合が高い。

問23.日々の充実感 × 問24.生きがいを感じていること

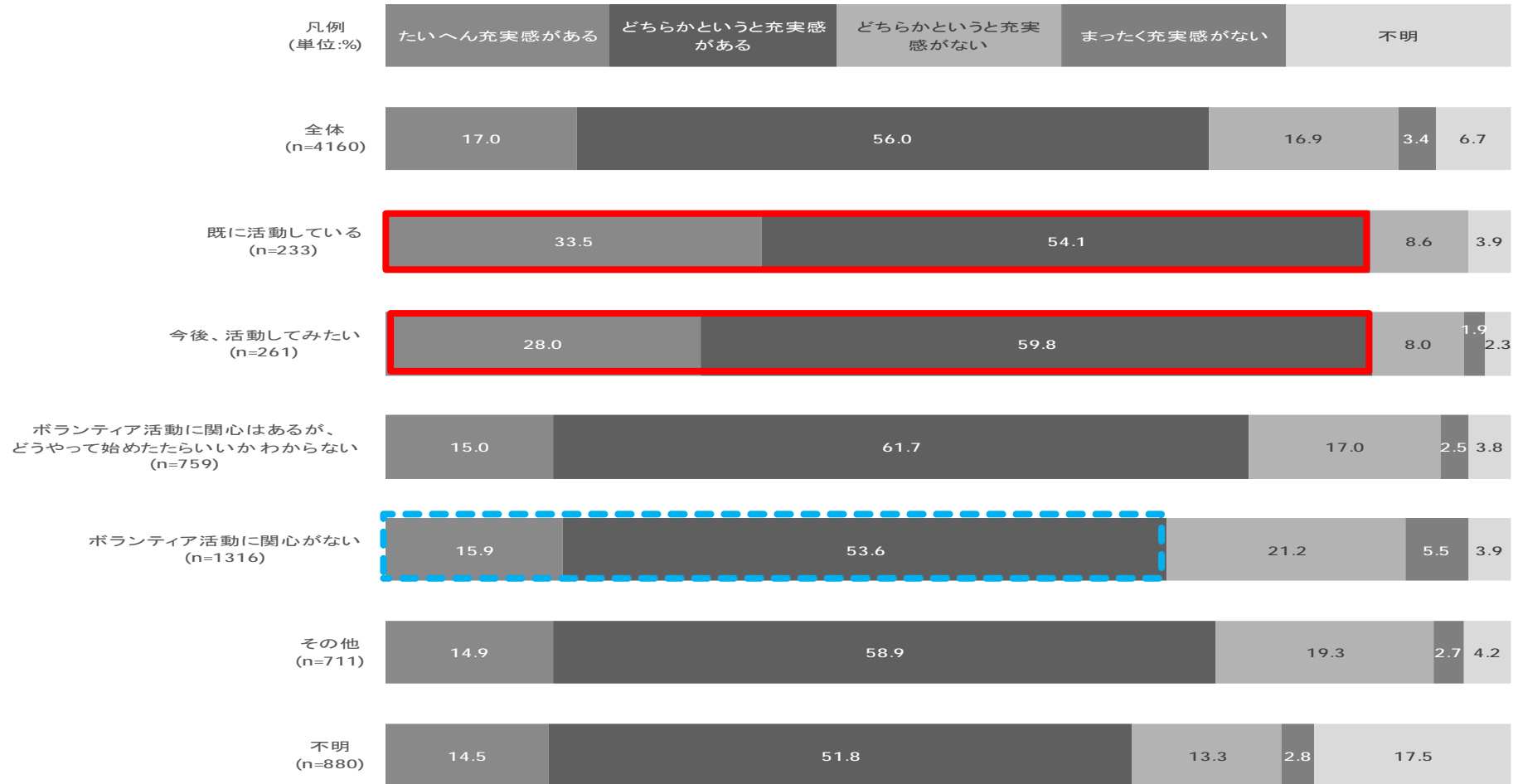


(続き)

・「仕事」や「趣味の活動」等の生きがいを感じていることがあると回答した方は、「特にない」と回答した方に比べて、「たいへん充実感がある」「どちらかという充実感がある」と回答した割合が高い。

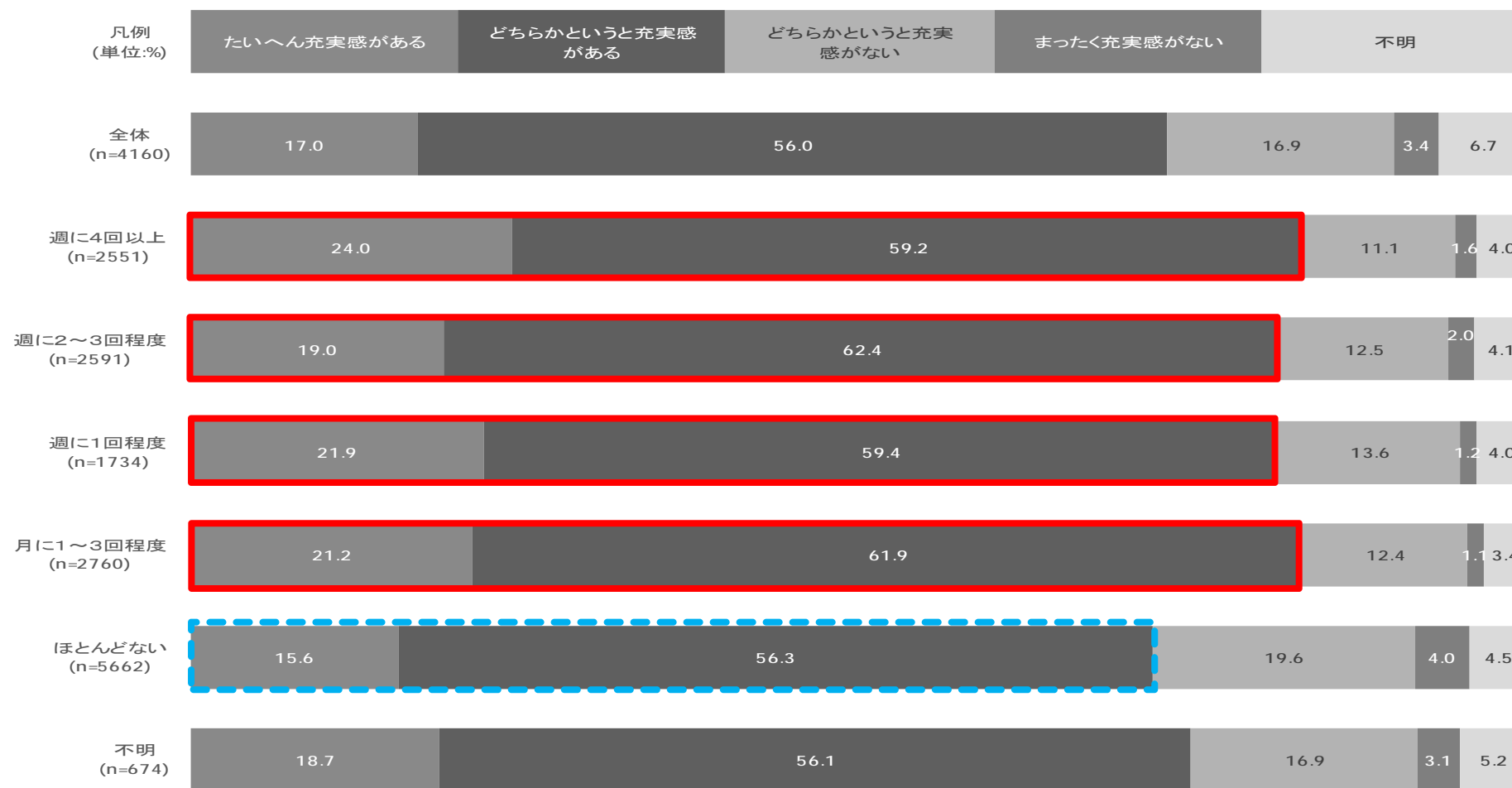
・その中でも、「仕事」や「ボランティア活動・地域活動」と回答した方の、充実感があると回答した割合が最も高く、次いで、「**SNS**を活用した交流」が高くなっている。

問23.日々の充実感 × 問31-1.ボランティア活動への参加意向



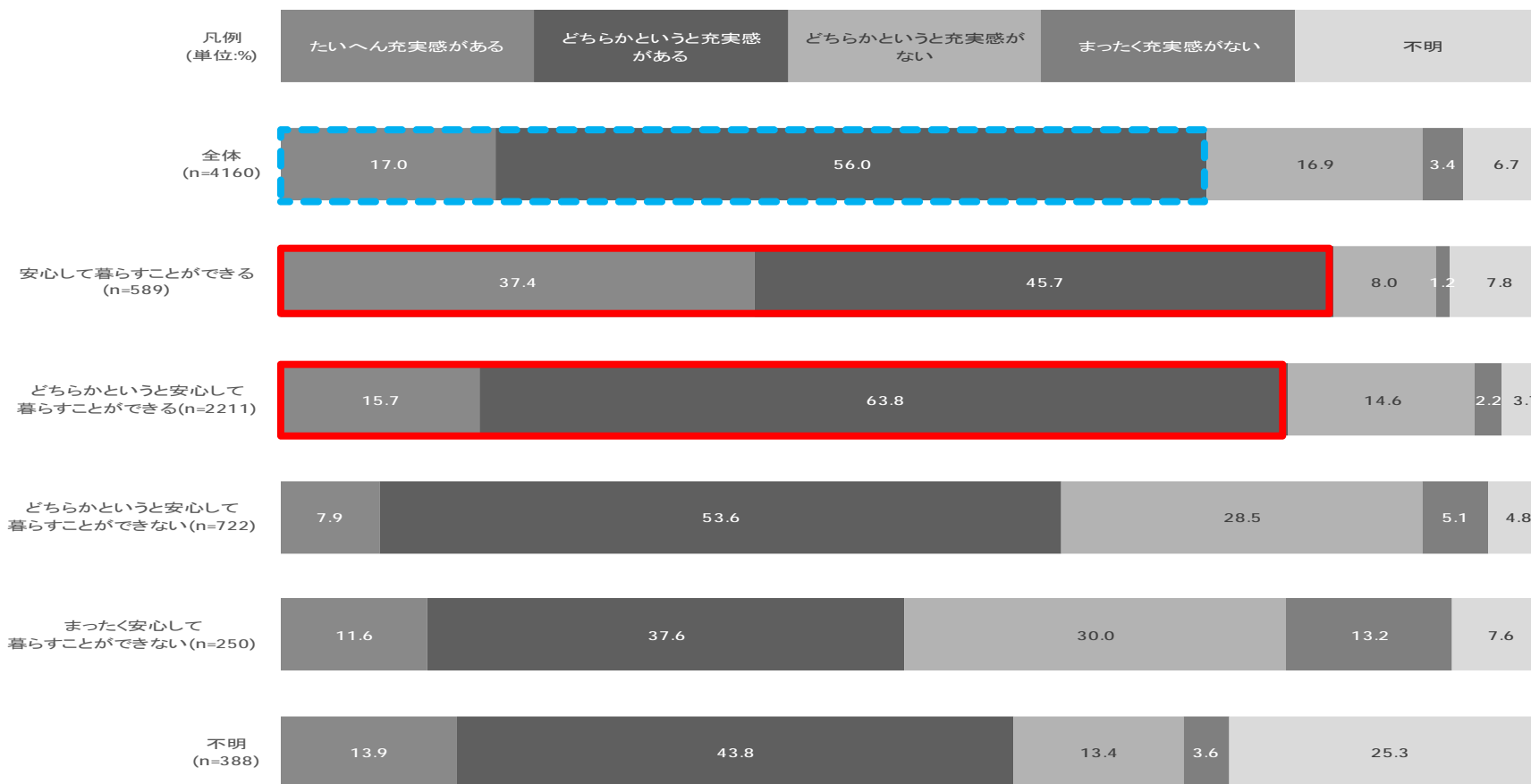
・ボランティア活動について「既に活動している」「今後、活動してみたい」と回答した方は、「ボランティア活動に関心がない」と回答した方に比べて、「たいへん充実感がある」「どちらかという充実感がある」と回答した割合が高い。

問23.日々の充実感 × 問32-1.自分で外出する目的と頻度



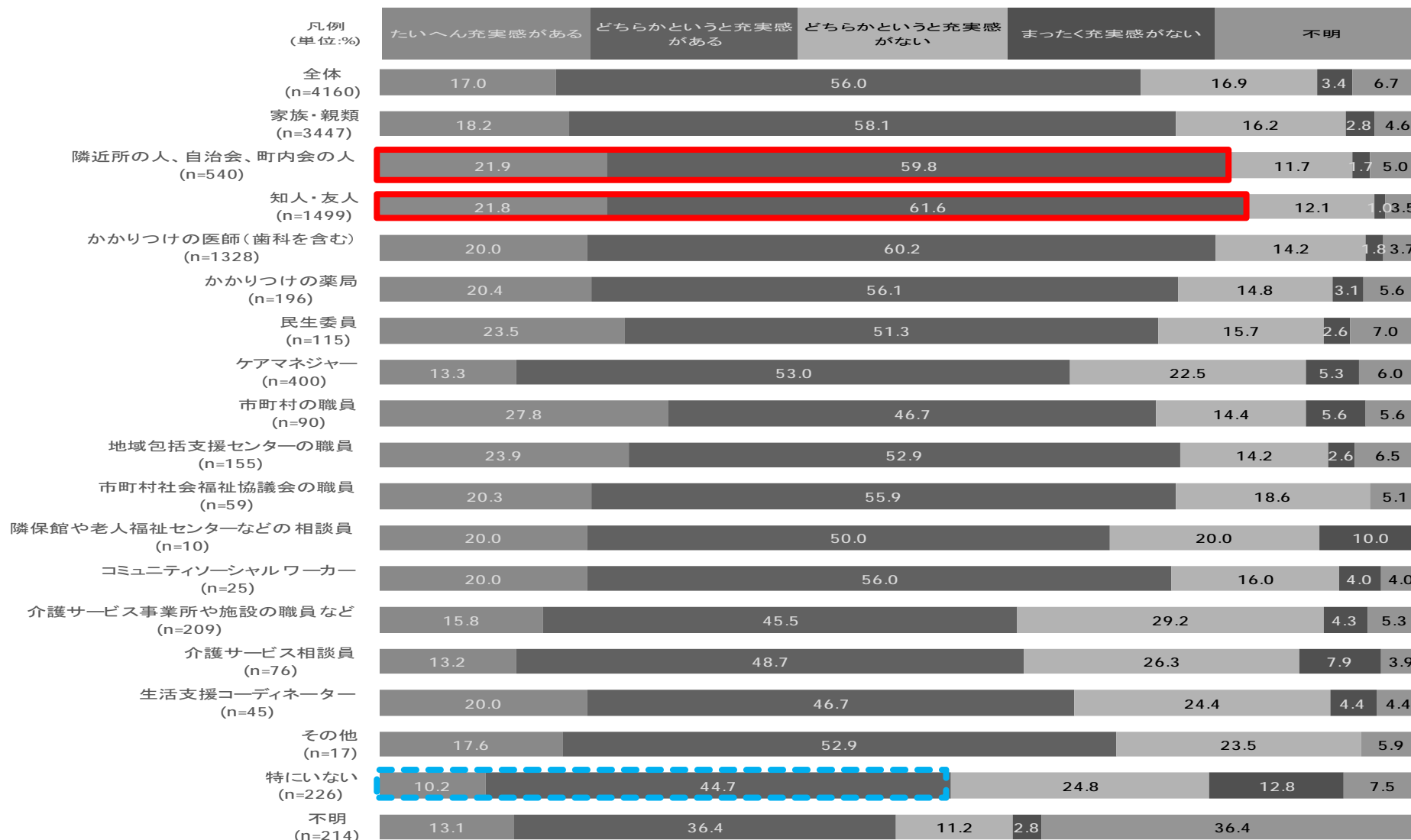
・自分で外出する方は、外出が「ほとんどない」方に比べて、「たいへん充実感がある」「どちらかという充実感がある」と回答した割合が高い。

問23.日々の充実感 × 問33.住んでいる地域での暮らしの安心



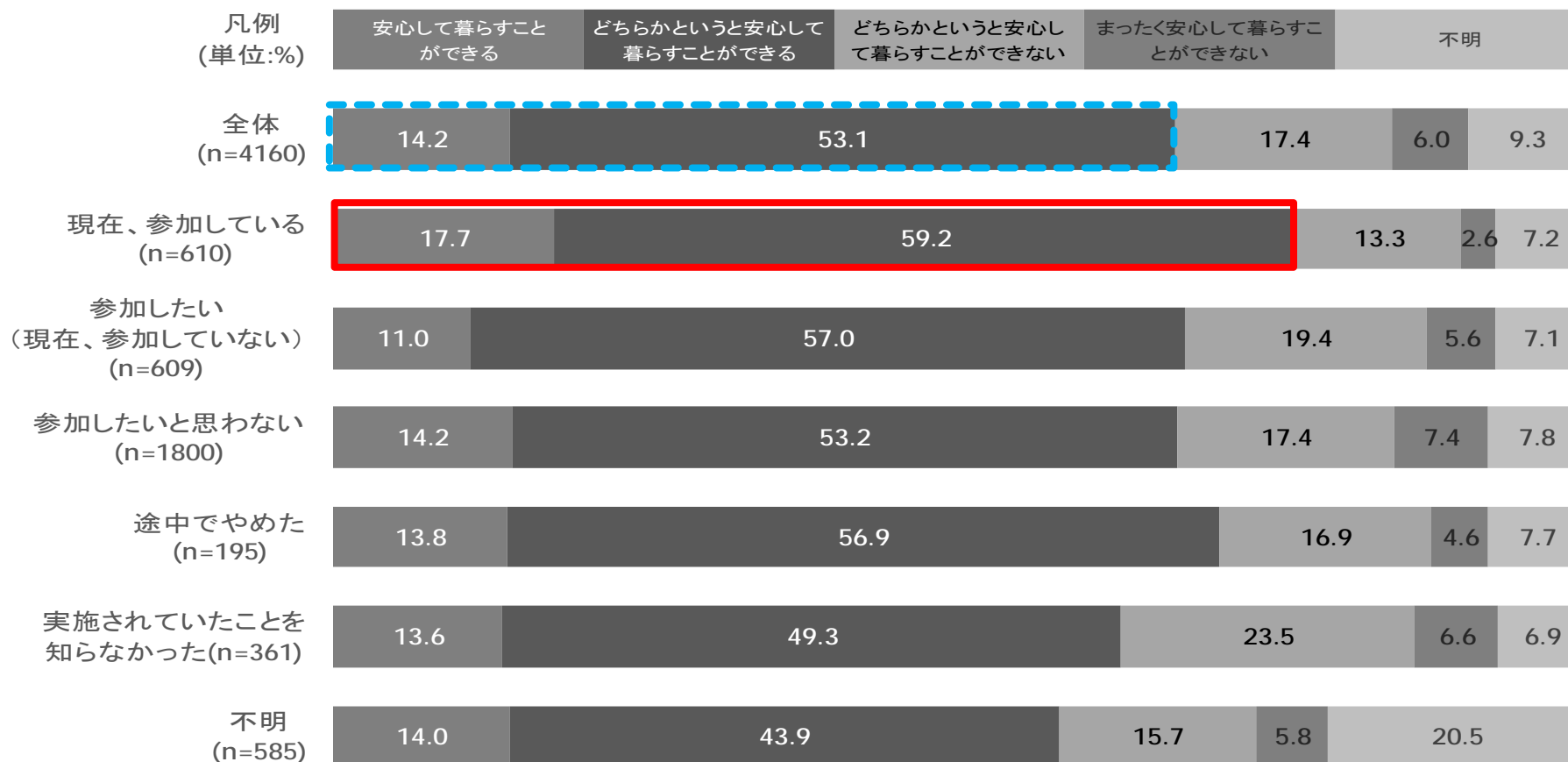
・住んでいる地域で「安心して暮らすことができる」、「どちらかという安心して暮らすことができる」と回答した方は、全体に比べて、「たいへん充実感がある」、「どちらかという充実感がある」と回答した割合が高い。

問23.日々の充実感 × 問34.困ったことや不安なことを相談できる相手



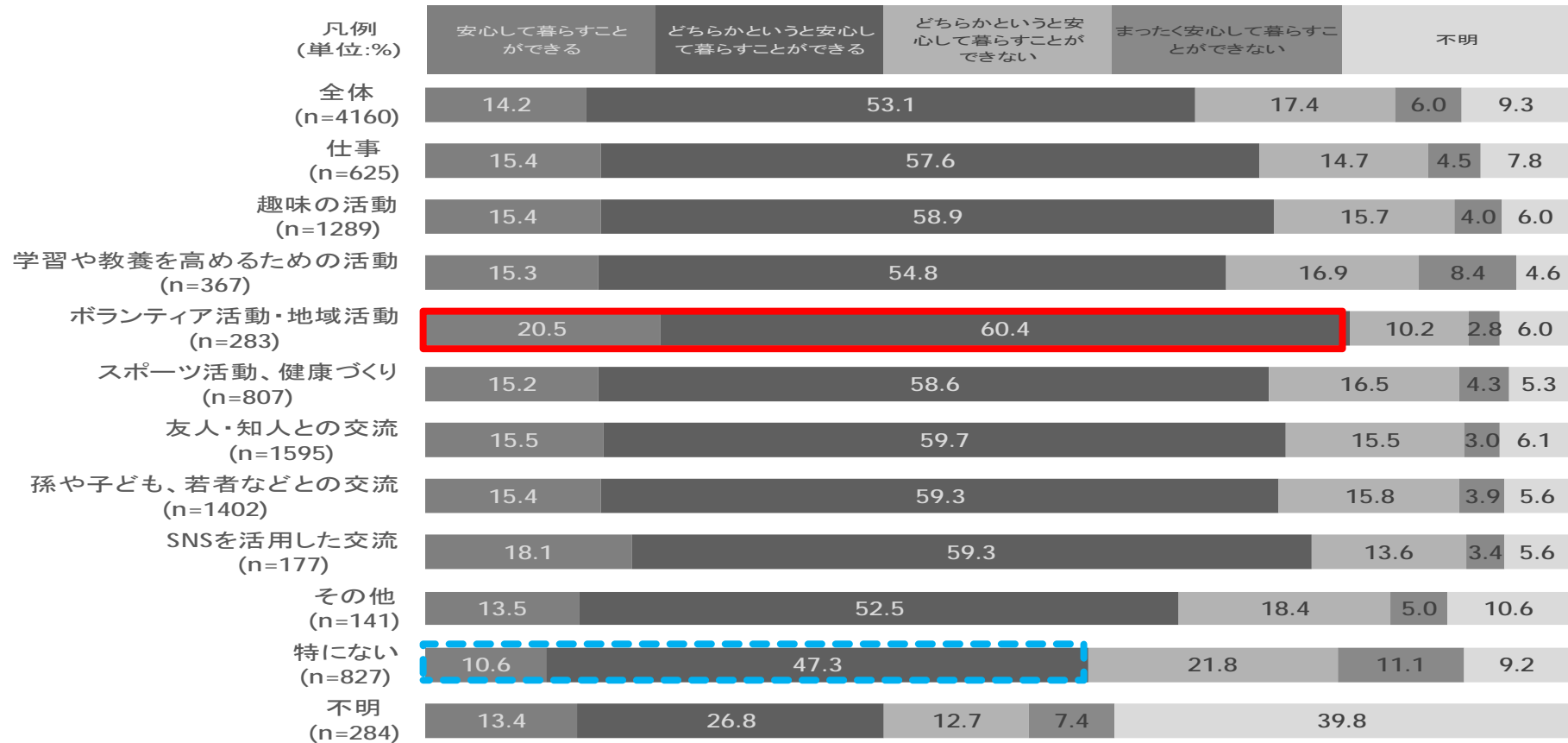
- ・「隣近所の人、自治会、町内会の人」等、困ったことや不安なことを相談できる相手がいる方は、「特にないない」と回答した方と比べて、「たいへん充実感がある」、「どちらかという充実感がある」と回答した割合が高い。
- ・「知人・友人」と回答した方の、充実感があると回答した割合が最も高く、次いで、「隣近所の人、自治会、町内会の人」が高くなっている。

問33.住んでいる地域での暮らしの安心 × 問16-1.健康体操や趣味の集い等の参加状況



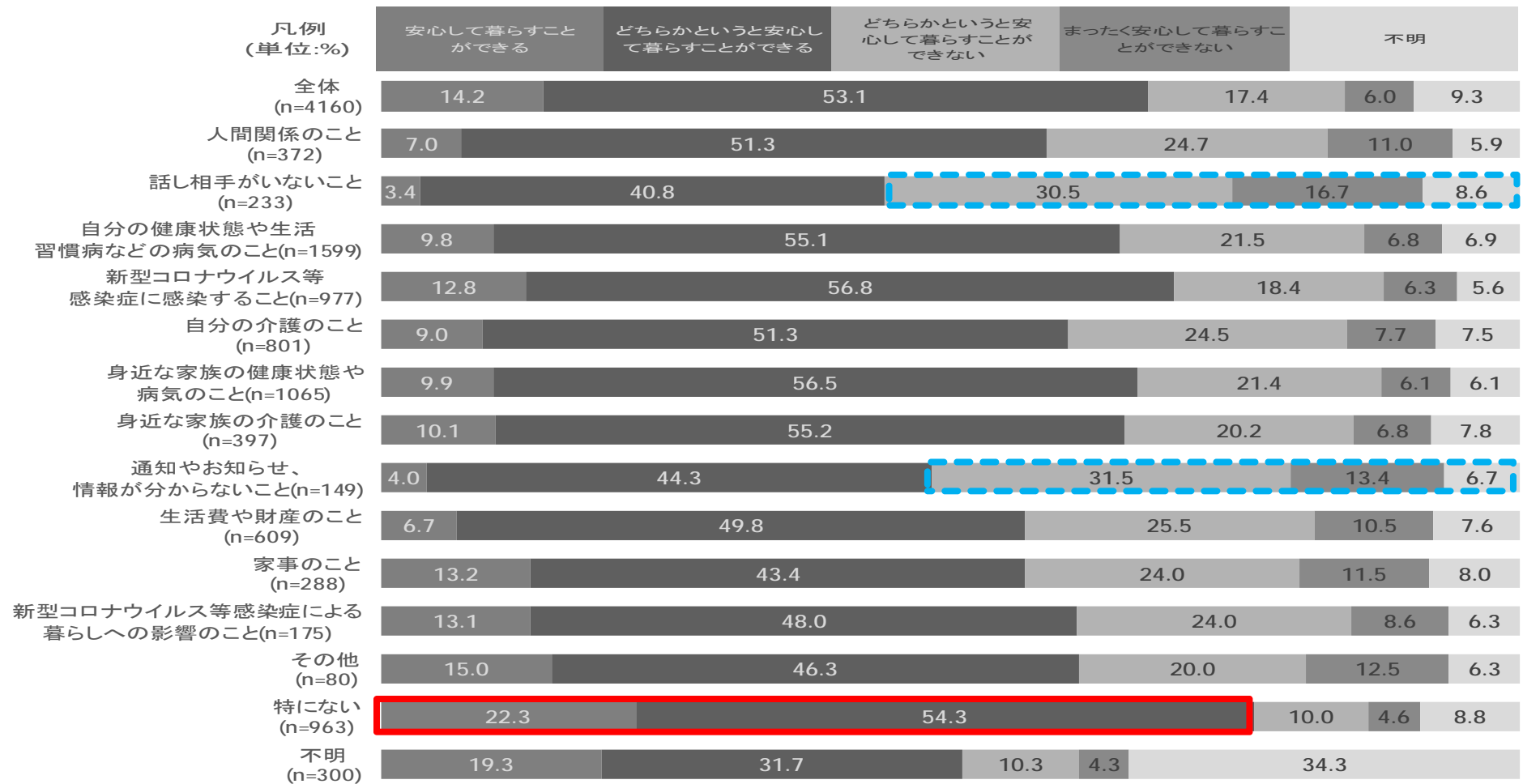
・健康体操や趣味の集い等に「現在、参加している」方は、全体と比べて、「安心して暮らすことができる」「どちらかという安心して暮らすことができる」と回答した割合が高い。

問33.住んでいる地域での暮らしの安心 × 問24.生きがいを感じていること



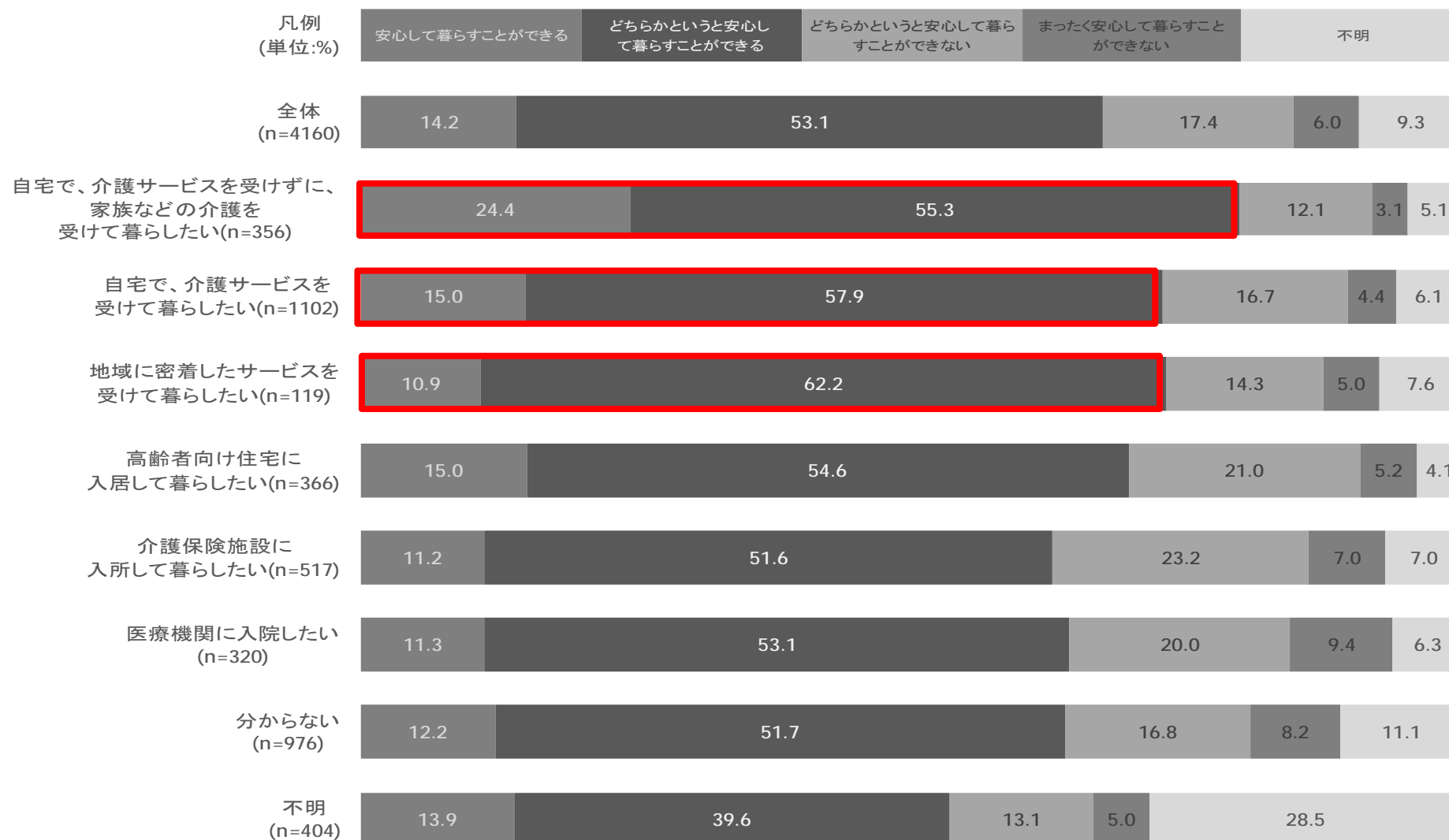
- ・「仕事」や「趣味の活動」等の生きがいを感じていることがあると回答した方は、「特にない」と回答した方と比べて、「安心して暮らすことができる」「どちらかというと安心して暮らすことができる」と回答した割合が高い。
- ・「ボランティア活動・地域活動」と回答した方の、安心して暮らすことができると回答した割合が最も高い。

問33.住んでいる地域での暮らしの安心 × 問26.日常生活での不安や悩み



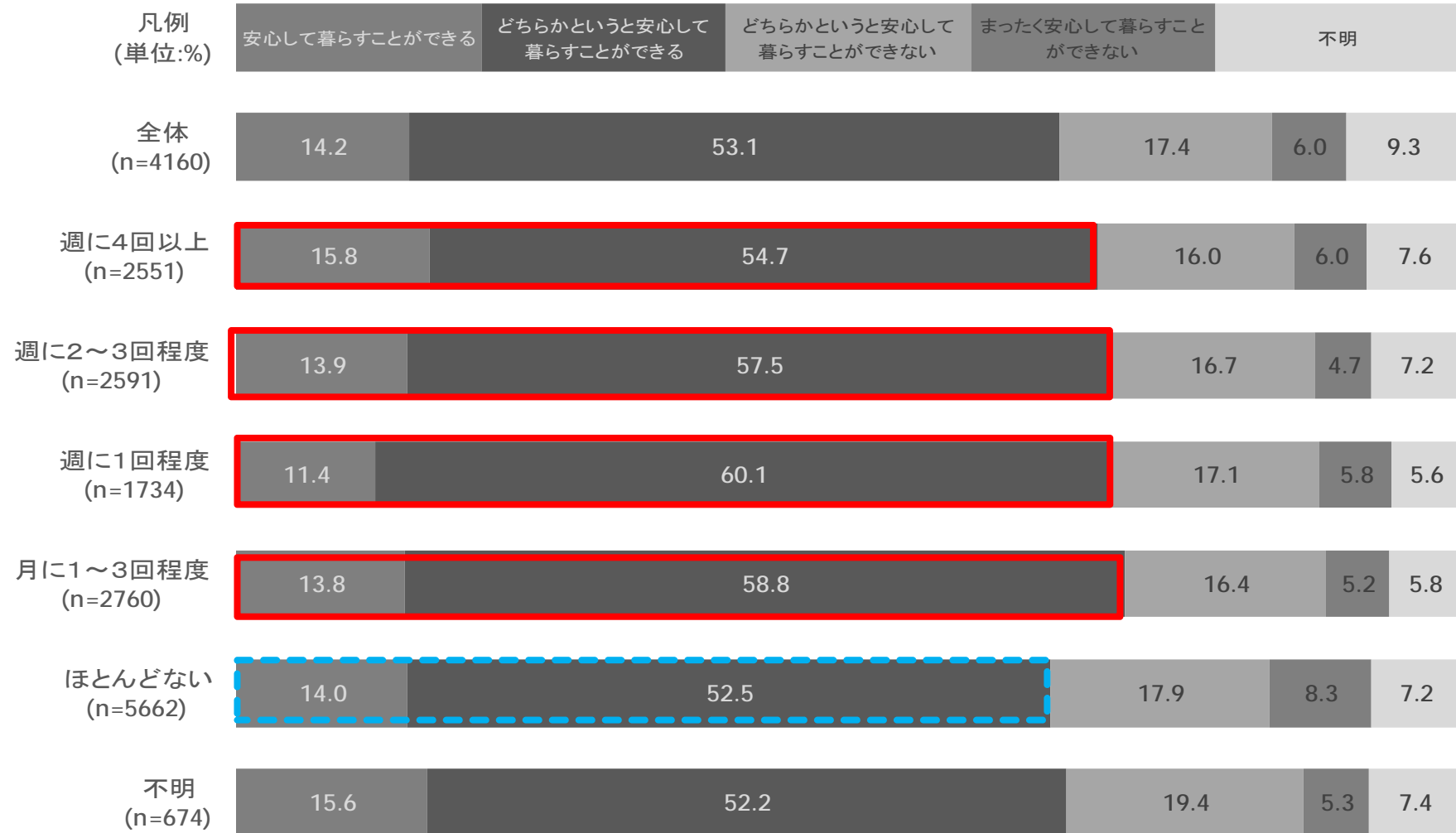
- ・日常生活での不安や悩みが「特にな」と回答した方は、「安心して暮らすことができる」「どちらかという安心して暮らすことができる」と回答した割合が高い傾向。
- ・「話し相手がないこと」「通知やお知らせ、情報が分からないこと」と回答した方の、「どちらかという安心して暮らすことができない」「まったく安心して暮らすことができない」と回答した割合が高い。

問33.住んでいる地域での暮らしの安心 × 問29.人生の最期を迎える時にどのような暮らしをおくりたいか



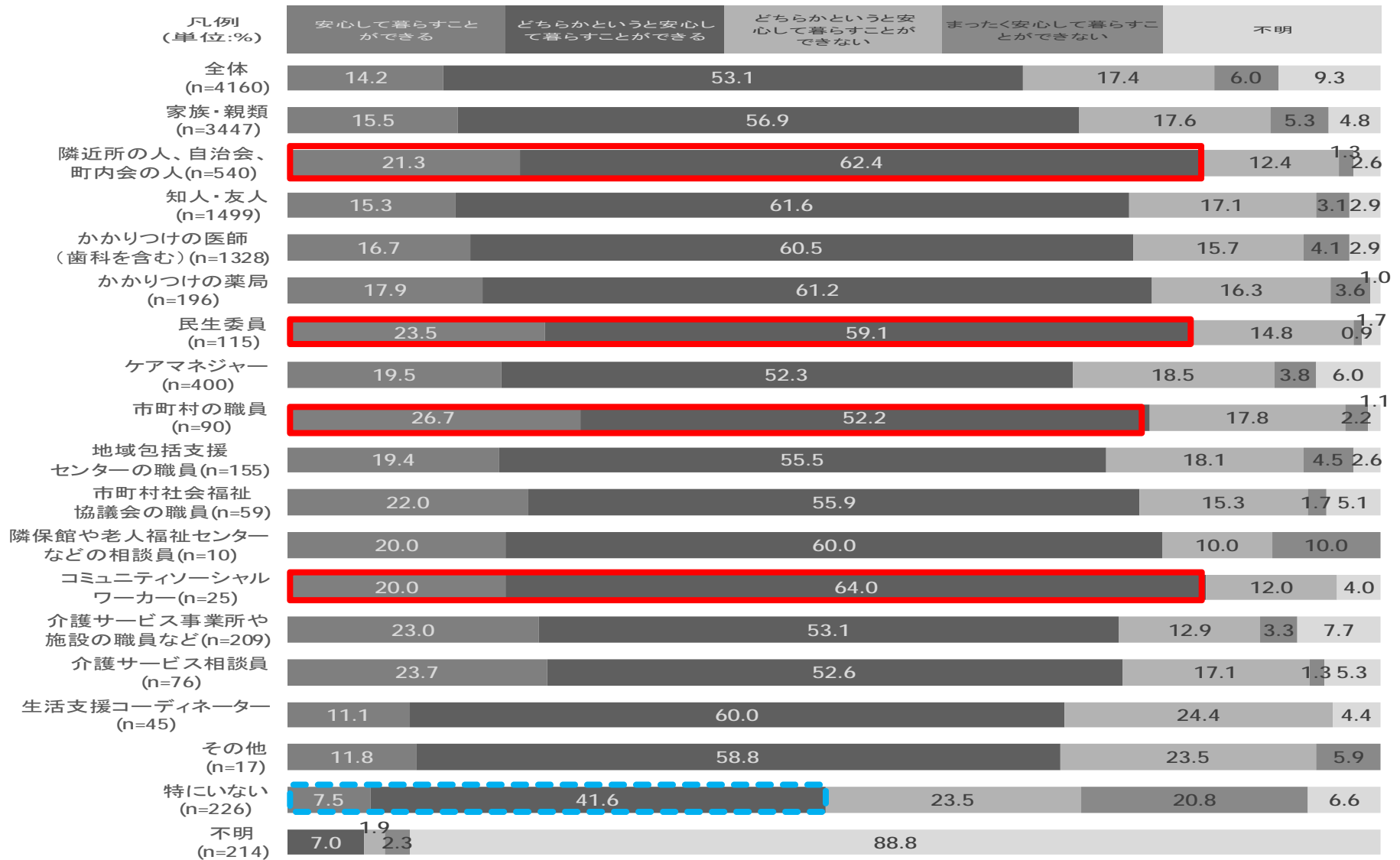
・自宅や地域で暮らしたいと回答している方は、「安心して暮らすことができる」「どちらかという安心して暮らすことができる」と回答した割合が高い傾向。

問33.住んでいる地域での暮らしの安心 × 問32-1.自分で外出する目的と頻度



・自分で外出する方は、外出が「ほとんどない」方に比べ、「安心して暮らすことができる」「どちらかという安心して暮らすことができる」と回答した割合が高い。

問33.住んでいる地域での暮らしの安心 × 問34.困ったことや不安なことを相談できる相手



・「隣近所の人、自治会、町内会の人」等、相談できる相手がいる方は、「特になし」と回答した方に比べて、「安心して暮らすことができる」「どちらかという安心して暮らすことができる」と回答した割合が高い。